

SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

鹿児島県徳之島町

2022年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

徳之島町 SDGs 未来都市計画
あこがれの連鎖と幸せな暮らし創造事業

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

徳之島町 SDGs 未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

世界自然遺産である貴重な自然環境とそれらと共存してきた人の暮らし・文化を、島に暮らす私たち自身が再評価し、人と自然環境との共存という現代世界の抱える課題への挑戦事例を提供できる地域社会が実現している。

また、大学進学等で一度は島外転出する若い世代が「島でやりたい仕事があるので、大学を卒業したら島に帰る」、「都会で修業したあとは島に戻り、起業する」、「徳之島は私のリゾートオフィスであり、第二のふるさとでもある」等の声が多く聞かれる「あこがれの連鎖」が絶えないチャレンジの島となっている。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	島内在住のテレワーカー数【8.2,8.3】	2019年 0人	2021年 4人	2030年 30人	13%
2	エコビレッジの商品開発数【9.4,9.b】	2019年 0件	2021年 3件	2030年 21件	14%
3	町主催での学校外におけるプログラミング教室数【4.3,4.4】	2019年 1教室	2021年 1教室	2030年 3教室	0%
4	シマ（集落）の高齢者の自生植物栽培への参画者割合【11.7】	2019年 0%	2021年 9.4%	2030年 90%	10%
5	われんきゃ（子ども）エコツアーガイド育成プログラム実施数【12.8】	2019年 3小学校区	2021年 3小学校区	2030年 8小学校区	0%
6	赤土等の流失防止ほ場等数【14.1,14.2】	2019年 0箇所	2021年 1箇所	2030年 12箇所	8%

(5) 「2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【経済】

遠隔テレワーカーとして、中期間の滞在者は多くみられるが、在住者は増加していない。テレワーカーが何を求めているのかの聞き取りを実施した結果、移住支援により注力してほしいとの声が多々ありテレワーカー数増加に向け施策を計画している。エコビレッジ商品の開発数については、目標に向け順調に推移している。

【社会】

プログラミング教室については、プログラミングコンテストや検定を実施している。コンテスト等へ挑戦する学生も増加傾向にあり目標に向け順調に推移している。また、自生植物栽培への参画について、集落支援員の実証の成果が出てきており集落の方々も、興味を示してきている。

【環境】

集落支援員の所有しているコーヒー農園にて赤土等流出防止ほ場を設置している。エコツアーガイド育成プログラムについては、取り組み内容等さらなる周知を実施、目標達成に向け取り組む。

【共通】

新型コロナウイルス感染症の影響により対面によるやりずらさや目標値に対して現状値が伸び悩んでいることを考慮し、2022年3月31日「第2期徳之島町 SDGs 未来都市計画」を策定した。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2019年実績	2020年実績	2021年実績	2021年目標値	達成度(%)
1	クリエイティブファクトリー構築事業	島内在住のテレワーカー数	2018年 0人	2019年 5人	2020年 5人	2021年 4人	2021年 10人	40%
2	「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティの再興	シマ（集落）の高齢者の自生植物栽培への参画者割合	2018年 0%	2019年 9.4%	2020年 9.4%	2021年 9.4%	2021年 50%	19%
3	「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティの再興	赤土等の流失防止ほ場等数	2018年 0箇所	2019年 1箇所	2020年 1箇所	2021年 1箇所	2021年 3箇所	33%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

本町の取組に賛同していただいている武蔵野大学等と連携し大学生の視点で地域課題を考え、それを解決するためのエコツーリズムの提案等をいただいている。SDGs未来都市に選定されていることで注目されるようになり、ソフトバンク（株）との事業連携協定で離島における教育の地域課題解決実施していく予定である。その他の企業からも連携に向けた話をいただく機会が増えている。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

再掲
【経済】
 遠隔テレワーカーとして、中間期の滞在者は多くみられるが、在住者は増加していない。テレワーカーが何を求めているのかの聞き取りを実施した結果、移住支援により注力してほしいとの声が多々ありテレワーカー数増加に向け施策を計画している。エコビレッジ商品の開発数については、目標に向け順調に推移している。
【社会】
 プログラミング教室については、プログラミングコンテストや検定を実施している。コンテスト等へ挑戦する学生も増加傾向にあり目標に向け順調に推移している。また、自生植物栽培への参画について、集落支援員の実証の成果が出てきており集落の方々も、興味を示してきている。
【環境】
 集落支援員の所有しているコーヒー農園にて赤土等流出防止ほ場を設置している。エコツアーガイド育成プログラムについては、取り組み内容等さらなる周知を実施、目標達成に向け取り組む。
【共通】
 新型コロナウイルス感染症の影響により対面によるやりずらさや目標値に対して現状値が伸び悩んでいることを考慮し、2022年3月31日「第2期徳之島町SDGs未来都市計画」を策定した。

(4) 有識者からの取組に対する評価

- ・離島の特性を活かした計画で、ワーケーションの場であり、IT・AI教育の場でもあるクリエイティブファクトリー「みらいづくりラボ」、エコビレッジとしてのコミュニティ再生など、自律的好循環が生まれると小規模自治体の好モデルとなると思料する。
- ・コロナ禍中で奮闘し、直面した課題を精査して、三側面全体、特に経済的側面において、具体的で持続可能な施策を打ち出すことを期待する。
- ・クリエイティブファクトリー構築、みらいづくりプロジェクトの構想をより具体化されることが期待される。